

出題分析			
試験時間	60分	配点	50点
		大問数	5題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 5 題・小問数 41 問と、大問数は昨年より 1 つ減少したものの小問数はほとんど変わらなかった。時代範囲は、古代～近現代から満遍なく出題された。出題内容は、昨年と同様に史料の引用が多く、第 1 問を除くすべての大問で読み取り問題が出題された。出題形式は、Ⅲで田沼意次の評価に関する 2 つの視点から各 50 字で論述する問題が出題された。また、昨年はみられなかった「該当するものをすべて選ぶ」問題が再び出題されたことに加え、「3 つ選ぶ」問題も 1 問出題された。さらに 4 文のうち正誤の組合せを選ぶ問題も新たに 2 問追加され、3 文正誤問題は昨年から 1 つ増えて 2 問であった。</p> <p>読み取りを要する史料問題の出題や、論述問題の出題、選択問題に様々な形式が見られ、受験生は解答に苦労しただろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	大伴氏の歴史	古代の政治・文化を中心とした出題。問 4. 消去法で対処したい。ちなみに、エの俘囚が現れるのは蝦夷政策の進んだ 8 世紀以降であるため誤り。問 6. エは判断が難しいが、リード文をヒントにしたい。問 7. オは「唐衣」(平安時代の女性の正装である女房装束を構成するものの一つ) がキーワードになるが、難。	標準
II	藤原道家の奏状と万里小路時房の日記	中世の政治・社会・文化を中心とした出題。問 1. 史料 1 に「父祖の記録」とあることをヒントにしたい。問 2. 藤原道家は九条兼実の孫であるから、「家門の典籍」に含まれる書籍としては『玉葉』が該当する。問 3. 史料・選択肢ともに読みづらく、確証をもって選びにくい。問 4. こちらも史料が読みづらく、「すべて選ぶ」問題であるため解答に迷うだろう。問 6. 難。史料が公家の立場から書かれた文書であることと設問文から、後三条天皇が設けた記録所(記録荘園券契所)を想起したい。	難

Ⅲ	江戸時代の武士の主従関係	江戸時代の政治・経済・社会・文化を中心とした出題。問 1. エはお手伝い普請や参勤交代も軍役とみなされた。問 4. z のクナシリ・メナシの蜂起の時期は細かいが、早大の受験生ならおさえておきたい。問 9. リード文や史料をもとに、田沼意次の評価に関して、アは商業活動を活発化させ、社会の格差拡大を招いたこと、イは將軍への忠誠から幕府の財政再建に努め、体制の維持を図ったことについて述べる必要があった。	標準
Ⅳ	近代日本の民衆運動	近代の政治・社会を中心とした出題。問 2. アとイで迷うだろう。イの「日本国憲按」を作成したのは元老院だが、細かい。問 4. ②と③の正誤を判断できれば正解が選べる。なお、①は群馬ではなく福島の出来事。問 6. イの桂太郎は宮内大臣ではなく内大臣兼侍従長であった。	標準
Ⅴ	近代の植民地とその後	近現代の政治・外交を中心とした出題。問 2. 名前が浮かんでも漢字を正しく書けるかどうか。柳宗悦は 2020 年・2023 年の教育学部でも出題されている。問 4. 空欄 C は石橋湛山で、早大では頻出の人物。問 5. 大学側から正解となる選択肢が複数あり、そのいずれを選択した場合も得点を与える旨の発表があった。出題者はエを誤文と想定したと思われるが、イの台湾「精」糖会社は正しくは台湾「製」糖会社である。問 9. エの日米行政協定は日米安全保障条約調印の翌年に締結されており、細かいため注意しよう。	標準

合格のための学習法

早稲田大学教育学部の日本史は例年、史料問題が多いことに加え、正誤判定問題に「該当するものをすべて選べ」などの設問条件も見られ、難度の高い問題が出される。また、今年は昨年から引き続き論述問題が出題された。時代別では特に中世に難度の高い出題が多く見られるため、日頃から中世範囲の丁寧な学習を心がけたい。その他、細かい知識が問われる問題に対しては、出題傾向に慣れるために過去問を解く時間をしっかりと設けたい。他方で、教科書で充分に対応することができる標準的なレベルの問題もあるので、基本に忠実な学習を心掛けたい。その上で、過去問で出会った歴史語句は用語集の説明で確認しておく、更なる得点アップにつながるだろう。